

2025(令和7年)度「自然観察会」(主催)の記録

北海道ボランティア・レンジャー協議会

観 察 会	「晩秋の森観察会」(大沢口～エゾユズリハコース～志文別線～大沢コース、周回 3 km)	
開催日時	2025 (令和 7) 年10月18日 (土) 10:00-12:30	
天 候	雨予報70%も時雨れず 日最低気温8.8℃ 日最高気温14.2℃ (アメダス江別)	
参加状況	一般参加者：7人、2班編成／ボラレン：10+家族1人(前日下見会7人)	
観察記録 主なもの	草 本	(開花)アオミズ、エゾノコンギク、ユウゼンギク、 (観察)イヌタデ、ウマノミツバ、エゾトリカブト、オオウバユリ、カノツメソウ、キンミズヒキ、コウライテンナンショウ、サラシナショウマ、センツソウ、トリアシショウマ、ノブキ、ハナタデ、マイヅルソウ、ミズヒキ、ミミコウモリ、ムカゴイラクサ、ヤブハギ、ヨブスマソウ、ルイヨウショウマ (その他)クマイザサ、チシマザサ
	木 本	(紅葉・黄葉)アカイタヤ、イタヤカエデ、エゾニワトコ、オオカメノキ、カツラ～落ち葉の甘い香りも、コシアブラ、シウリザクラ、シナノキ、シラカンバ、タラノキ、ツタウルシ、ハリギリ、ホオノキ、ヌルデ、 (果実)チョウセンゴミシ、ツルシキミ (果実と来春に向けた花芽)、 (冬芽)オオカメノキ(花芽・葉芽)、ハクウンボク(葉柄内芽の膨らみ)、
	シ ダ	エゾフユノハナワラビ(栄養葉と胞子葉)、エゾメシダ、オシダ、オシヤグジデンド、コウヤワラビ、コタニワタリ、ジュウモンジシダ、ミゾシダ、ミヤマベニシダ、リョウメンシダ、
	野 鳥	エゾフクロウ、ハシブトガラ、
	その他	(昆虫等)サッポロマイマイ、ザトウムシ、ミカドフキバッタ、 糸状菌＝エントモファガグリリに感染死したフキバッタの仲間 (虫えい)ヌルデの五倍子、ナラメウロコタマフシ、 (エカキムシ)クマイザサ、ノブキ、ヒトリシズカの葉に残された虫の痕跡、 (きのこ類)エリマキツチグリ、ベニチャワンタケ、
感想など	・雨予報の中、遠来者など熱心な参加者に恵まれ、予定どおり無事に開催できた。 ・リスクマネジメントの啓蒙にボラレンカード(夏仕様)を活用した。 ・併せて、遊歩道から逸れない、採取しない。野鳥観察では滞留しないの徹底も。 ・「黄葉」はまずまずも、「紅葉」は遅れている。また、木の実などがほぼ皆無。 ・ハリギリとタラノキの違い、カエデ類の葉の形状の違いなど、会話が弾んだ。 ・ミズバショウの越冬芽、ハクウンボクの葉柄内芽などの解説も関心を集めた。 ・虫こぶや、バッタのてっぺん病(糸状菌：エントモファガ・グリリの感染)も。 ・今回もサプライズで「エゾフクロウ」の姿を観察することができ好評であった。 ※ボラレン歴の浅い会員の参加が堅調な反面、ベテランの足が遠のき気味で心配。	



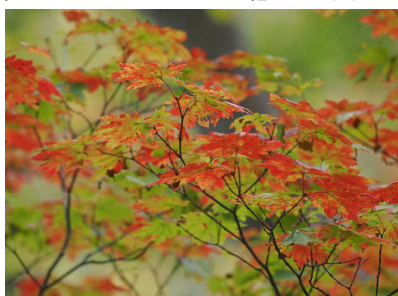
大沢口にて開会式



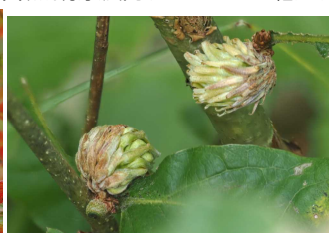
班別ガイド・自然観察風景



班別ガイド・自然観察風景



エゾフユノハナワラビ 色づきはじめたハウチワカエデの紅葉



ナラメウロコタマフシ



メノコツチハンミョウ

(記録：糸井利子、事務局)